

授業科目	*看護技術論演習				実務家教員担当科目	○	
単位	1.	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	長崎 恵美子						
授業概要	<p>実務家教員として、病院での臨床経験と大学での看護学教育の経験を生かして、看護における「看護技術」の意義と特徴、範囲を示し、適切な看護を実践するうえで必要な要素について概説する。</p> <p>ここでは、生活者である人間の人権を尊重して安全を保障し、安楽（快適さ）や自立に向けた援助を行う上での共通の看護技術について根拠を踏まえて学修する。具体的には、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位変換」、「環境調整技術」、「コミュニケーション技術」、「記録・報告」について、講義や看護実習室での演習を通して、基本的な知識・技術・態度を修得する。</p>						
授業形態	講義、演習			授業方	法		
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。 2. 看護における感染予防の意義を理解して、感染予防に向けた行動ができる。 3. ボディメカニクスを意識した行動ができる。また、その修正行動ができる。 4. 生活の中での環境アセスメントに関心を持ち、調整し、療養環境調整に生かすことができる。 5. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法について理解し、日常生活で活かすことができる。 6. 報告・記録の目的や原理原則を理解した上で、授業に生かすことができる。 7. 課題や演習を通して、決められたルールを守り、連絡・報告ができる。また、その修正行動がとれる。 8. 対象に配慮できる。 9. 自己学習や技術練習を行い、理解を深めることができる。 						
理想的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。 2. 感染予防の基本であるスタンダードプリコーションの概念について説明でき、感染予防行動がとれる。 3. 人を動かす、支えるために必要なボディメカニクスと安楽な体位について理解し、意識した行動がとれる。 4. 療養環境を整えるために必要な基礎知識を説明できる。また、実習室を使用して療養環境を整えることができる。 5. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法について説明できる。また、その方法を活用して日常生活で実践できる。 6. チーム医療に必要な記録、報告の重要性について説明することができる。また、授業や演習に活かすことができる。 7. 課題や演習を通して、チーム医療の基本となるルールの順守および連絡・報告が確実に実施できる。 8. 援助に伴う倫理的課題について考え、対象者に応じた関わりを説明できる。 9. 積極的に自己学習を行い、友人と意見交換や技術練習を重ね、看護について理解を深めることができる。 						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			50%				

小テスト	10%	
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	
レポート外の提出物		
その他	20%	
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング		
DP1	○	DP2
	○	DP3
	-	DP4
	○	DP5
	-	
	ナンバリン グ	NU11203J
学習課題（予習・復習）		1回の学習目安 （時間）
予習：教科書（基礎看護技術 I）の該当部分の通読、動画やテキストの活用、演習資料の熟読、 事前課題 復習：講義内容の整理、まとめノートの活用、看護用語の学習、演習の課題レポート、自己練 習		1
授業計画		
第 1 回	【本科目のガイダンス】 【看護技術の意義】 看護技術の意義と特徴、範囲 看護技術を提供するための共通言語としての看護用語 【実習室オリエンテーション】 [講義：長崎恵美子]	
第 2 回	【感染予防技術①】 感染予防の重要性 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染経路別予防策 感染性廃棄物の取り扱い [講義：長崎恵美子]	
第 3 回	【安全・安楽を守る技術①】 ボディメカニクス 体位変換（ポジショニング） 転倒・転落防止 [講義：長崎恵美子]	
第 4 回	【快適な環境を作る技術①】 看護における環境 療養生活と環境 病室環境のアセスメントと調整環境の基礎知識 [講義：長崎恵美子]	
第 5 回	【感染予防技術②】 衛生的手洗い・个人防护用具（マスク・エプロン・手袋）の着脱	

	<p>【安全・安楽を守る技術②】 ボディメカニクスの原理（水平移動） 体位変換（仰臥位→側臥位） [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第6回	<p>【感染予防技術②】 衛生学的手洗い・個人防護用具（マスク・エプロン・手袋）の着脱 【安全・安楽を守る技術②】 ボディメカニクスの原理（水平移動） 体位変換（仰臥位→側臥位） [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第7回	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング [演習：長崎恵美子、梶原江美、隅田由加里、中島紀江、西田彩子] 【コミュニケーション技術①】 コミュニケーションの種類と構成要素、関係構築のためのコミュニケーションの基本 [講義：金山正子]</p>
第8回	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング [演習：長崎恵美子、梶原江美、隅田由加里、中島紀江、西田彩子] 【コミュニケーション技術②】 プロセスレコードとコミュニケーション障害への対応の基本 【記録・報告】 チームで看護を実践・継続させていくためのコミュニケーション技術（記録・報告） [講義：金山正子]</p>
第9回	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング [演習：長崎恵美子、梶原江美、隅田由加里、中島紀江、西田彩子] 【コミュニケーション技術①】 コミュニケーションの種類と構成要素、関係構築のためのコミュニケーションの基本 [講義：金山正子]</p>
第10回	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング [演習：長崎恵美子、梶原江美、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>

	<p>【コミュニケーション技術②】 プロセスレコードとコミュニケーション障害への対応の基本 【記録・報告】 チームで看護を実践・継続させていくためのコミュニケーション技術（記録・報告） [講義：金山正子]</p>
第11回	<p>【快適な環境を作る技術③】 シーツ交換/環境調整 [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第12回	<p>【快適な環境を作る技術③】 シーツ交換/環境調整 [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第13回	<p>【まとめ①：実技チェック】 既習の知識・技術を活用し、患者を迎え入れるベッドを作成する [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子] 【課題学習】 看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。</p>
第14回	<p>【まとめ①：実技チェック】 既習の知識・技術を活用し、患者を迎え入れるベッドを作成する。 [演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子] 【課題学習】 看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。</p>
第15回	<p>【まとめ②：知識・技術の整理】 看護技術論演習で学んだ内容について整理する。 [講義：長崎恵美子]</p>
テキスト	<p>深井喜代子 編：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第6版 メヂカルフレンド社 2021 3,520円 深井喜代子 編：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第5版 メヂカルフレンド社 2021 3,520円 宮脇美保子、深井喜代子 総監修：新体系看護学全書準拠 基礎看護学まとめノート 別冊解答付き (第1巻 看護学概論/臨床看護総論、第2巻 基礎看護技術Ⅰ、第3巻 基礎看護技術Ⅱ) 第1版 メヂカルフレンド社 2022 4,000円+税</p>
参考図書・教材 /データベース・ 雑誌等の 紹介	<p>山口瑞穂子 監修：新訂版 看護技術講義・演習ノート上巻 第2版 サイオ出版 2016 山口瑞穂子 監修：新訂版 看護技術講義・演習ノート下巻 第2版 サイオ出版 2016 竹尾恵子 監修：看護技術プラクティス【第4版 動画付き】 学研メディカル秀潤社 2019 医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 2018 医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 2018</p>

	<p>佐藤和良 著：看護学生のための物理学 医学書院 2014</p> <p>その他、学生が学修するにあたって有益な教材があれば、必要時紹介します。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>小テストは採点后、次回の講義で解説または提示する。</p> <p>課題レポートや講義に関する質問は、コメントをつけて返却、または、次回の講義内で伝える。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>本科目は、講義と看護技術の実技演習を併せた授業です。予習・復習をして臨むことを定着させましょう。また、基本的態度として classroom を活用する、感染症対策・健康管理の他に身だしなみを整えて演習に臨むことが必要です。</p> <p>看護を行うには、心（態度）と頭（知識）と手（技術）すべてが必要です。手順ではなく根拠を基に考えること、患者役の体験を通して倫理的配慮を工夫し、友人と意見交換を重ねて、よりよい技術の習得を目指しましょう。</p>